

熊本地震における建築物被害の原因分析を行う委員会（第1回）
（建築構造基準委員会・建築研究所熊本地震建築物被害調査検討委員会）
議事要旨

日時：平成28年5月26日（木）17:00～19:05

場所：経済産業省別館11階1111 各省庁共用会議室

1 議事「熊本地震の被害の状況について」

(1) 熊本地震及び建築物の被害の概要

熊本地震の発生日時、規模、震度、人的被害状況、応急危険度判定実施状況等について、事務局より資料の説明があった。

(2) 現時点における現地調査等に基づく被害状況報告等

- ① 国総研、建研による調査概要
- ② 学会等における主な調査一覧
- ③ 地震動の概要
- ④ 木造の被害状況報告
- ⑤ 鉄骨造の被害状況報告
- ⑥ 鉄筋コンクリート像の被害状況報告
- ⑦ その他の被害状況報告

① から⑦について、被害状況の分析の中間報告として、事務局より資料の説明があった。

委員から今後事務局が調査の整理分析を進める上での意見等が出され、第2回委員会以降に向けて実施の可能性検討を含めて作業を進めることとされた。主な意見等は以下のとおり。

(地震動、地盤関係)

- 既存のボーリングデータ等のデータがあればそろえ、また可能であればボーリング等地盤調査を実施して、被害の地盤の影響について検討してほしい。

(木造関係)

- 益城町では場所によって被害率が違う。建設年代や地盤条件等による調査の結果の分析ができないか。
- 木造被害について、図面を入手するなどにより、新耐震または2000年以降の基準を満たしているかどうかなど、被害の原因をきちんと見ていく必要がある。
- 2000年以降の物件の金物の被害について、その施工などの状況や原因が明らかになるとよい。
- 2000年に基礎の規定が整備されており、基礎の影響について今後の検討の中で扱ってほしい。
- 2000年以降の木造で倒壊したものについて、前震ではなく本震で倒壊したのかどうか、できるだけ確認してほしい。
- 性能評価制度を利用した建物があるかどうかの確認ができれば、被害を比較してほしい。

(鉄骨造関係)

- 被害の報告のあった鉄骨造では、接合部の溶接の状況は怎么样了か。

- 建設年代別に被害率をみたいので、調査対象の内訳として旧耐震、新耐震割合を出してほしい。
- 学校体育館屋根ブレースの接合部が壊れているという報道があり、今後調査してほしい。
- 学校体育館など文教施設について、国交省と文科省でお互いのデータを交換するなどの連携を進めてほしい。

(RC造関係)

- ピロティ形式の新耐震建築物に被害が報告されているが、1997年に追加された技術基準解説書の付録との関係を図面が手に入ったら確認してもらいたい。
- 基礎、杭の被害に関する情報の収集に努めてほしい。

(その他の被害分析関係)

- 免震について、建物の機能継続には問題がなかったとのことだが、被害がみられたことについて、原因を明らかにしてほしい。

(原因分析以外の意見等)

- 機能継続にどの程度の支障があったのか情報を入手して検討し、建築物にどのくらいの耐震レベルが必要なのか、避難所や庁舎など特定の用途については考えると、関係省庁と連携して施策への反映につなげるような提案がほしい。
- 前震の直後に本震が来たことを踏まえて、応急危険度判定のあり方についても検討すべきである。

以上